

2017年度第3四半期 決算説明資料

2018年2月6日
日本テレビホールディングス株式会社

本説明会及び資料の内容には、将来に対する見通しが含まれています。
しかし、実際の業績は、様々な状況変化や要因により、これらの見通しと大きく異なる結果となり得ることがあり、何らの保証やコミットメントを与えるものではありません。ご了承下さい。

また、本資料の無断転載はお断りいたします。

決算のポイント

視聴率状況と番組編成

2017年度3Q決算と2017年度の見通し

テーマ

- ① H J ホールディングスとティップネス
- ② 今後の設備投資と減価償却費

決算のポイント

Point

1

増収減益

2017年度第3四半期決算は増収減益

日本テレビ放送網の放送収入が減少した一方、放送外収入が増加

HJホールディングスの会費収入増などにより増収

営業利益は、減価償却費、保守修繕費などの増加、HJホールディングスのコンテンツ原価の増加などにより減益

四半期純利益は第2四半期に計上した減損損失などにより減益

Point

2

通期業績予想修正(売上高のみ)

通期業績予想は、営業利益、経常利益、当期純利益は変更なし
売上高について、20億円の下方修正

決算のポイント

視聴率状況と番組編成

2017年度3Q決算と2017年度の見通し

テーマ

- ① H J ホールディングスとティップネス
- ② 今後の設備投資と減価償却費

視聴率の状況

Point
1

2017年・年間三冠王獲得！全ゾーンで高視聴率を維持

① 4年連続三冠／3年連続五冠

- ・「全日」7年連続・「ノンプライム」6年連続・「プラチナ」3年連続トップ！
「プライム」「ゴールデン」では、2位局と2ポイント以上の差！
- ・月間三冠50か月連続（「全日」は55か月連続トップ）（*2018年1月まで）
- ・週間三冠48回獲得／全52週

② 関東地区だけでなく、系列局でも好調な視聴率

→日本テレビ系列26地区中、24地区で年間三冠を獲得

Point
2

2017年「年度」視聴率も三冠で推移！

（2018年2月5日現在）

2017年「年間」視聴率

期間:2017/01/02(月)~2017/12/31(日)

	NTV	EX	TBS	CX	TX	2位との差	HUT
全 日	8.2	7.4	6.3	5.7	2.8	+0.8	40.7
(6時-24時)	(-0.2)	(±0.0)	(+0.3)	(-0.1)	(-0.1)	(-0.2)	(-0.3)
プライム	12.0	10.0	9.8	7.8	6.2	+2.0	58.0
(19時-23時)	(±0.0)	(-0.7)	(+0.2)	(-0.4)	(±0.0)	(+0.7)	(-1.0)
ゴールデン	12.4	9.8	9.9	8.0	6.6	+2.5	60.5
(19時-22時)	(+0.1)	(-0.6)	(+0.2)	(-0.1)	(+0.1)	(+0.6)	(-0.5)
ノンプライム	7.1	6.6	5.3	5.2	1.8	+0.5	35.8
(6時-19時 23時-24時)	(-0.3)	(+0.2)	(+0.3)	(±0.0)	(-0.1)	(-0.5)	(-0.1)
プラチナ	6.7	5.6	4.4	3.8	2.6	+1.1	28.7
(23時-25時)	(-0.4)	(-1.1)	(-0.2)	(-0.4)	(-0.2)	(+0.7)	(-2.3)

- 注: 1. 表示は左からデジタルチャンネル順
 2. 世帯視聴率(関東地区)・ビデオリサーチ調べ
 3. ()内は前年との差 比較期間:2016/01/04(月)~2017/01/01(日)

2017年「年度」視聴率

期間: 2017/04/03(月)~2018/02/04(日)

(単位: %)	NTV	EX	TBS	TX	CX	2位との差	HUT
全 日	8.1	7.4	6.3	2.8	5.7	+0.7	40.7
(6時-24時)	(-0.3)	(+0.1)	(+0.3)	(±0.0)	(±0.0)	(-0.4)	(-0.3)
プライム	12.1	9.9	9.7	6.2	7.7	+2.2	57.9
(19時-23時)	(+0.2)	(-0.6)	(±0.0)	(+0.1)	(-0.3)	(+0.8)	(-0.8)
ゴールデン	12.5	9.7	9.9	6.6	7.9	+2.6	60.5
(19時-22時)	(+0.3)	(-0.5)	(+0.1)	(+0.1)	(-0.1)	(+0.6)	(-0.4)
ノンプライム	7.0	6.7	5.3	1.9	5.2	+0.3	35.8
(6時-19時 23時-24時)	(-0.4)	(+0.3)	(+0.3)	(±0.0)	(+0.1)	(-0.7)	(-0.1)
プラチナ	6.5	5.3	4.5	2.6	3.8	+1.2	28.4
(23時-25時)	(-0.5)	(-1.0)	(±0.0)	(-0.1)	(-0.3)	(+0.5)	(-2.1)

- 注: 1. 表示は左からデジタルチャンネル順
 2. 世帯視聴率(関東地区)・ビデオリサーチ調べ
 3. ()内は前年との差 比較期間: 2016/04/04(月)~2017/02/05(日)

「世帯」・「コア」視聴率の状況

「世帯」視聴率 4年連続3冠

「コアターゲット」視聴率 5年連続3冠

Point

「世帯」視聴率と「個人」視聴率を両立

→全日・プライム・ゴールデン全てのゾーンで

クライアントニーズの高い視聴者層も連続して首位獲得

2017年10月改編、2017年 振り返り

1 「スッキリ」のリニューアルで平日朝帯を強化

10月出演者変更＋美術セット等の改新による大幅リニューアル
⇒水ト麻美アナが加入し、報道強化、タイトルもスッキリに
⇒世帯視聴率 1部＋0.7% 2部＋0.2% (リニューアル前後クール比較)

2 2017年「ゴールデン年間視聴率」＋0.1 (昨年比) で3冠獲得

◎10月改編「超問クイズ！ 真実か？ウソか？」
⇒企画・タイトル変更で世帯視聴率＋1.1% (改編前後クール比較)

◎4月改編「嵐にしやがれ」枠移動⇒世帯視聴率＋2.5% (改編前後クール比較)

◎4月改編月曜フロア強化⇒GP4番組全て世帯平均視聴率昨年比大幅アップ



世帯平均14.0%
昨年比＋1.7



世帯平均13.7%
昨年比＋0.5



世帯平均13.0%
昨年比＋0.4



世帯平均13.8%
昨年比＋0.6

(2017年世帯平均)

4月改編のポイント

Point

1

「2016-18中期経営計画」最終年度の計画遂行

◎全日帯番組強化 ⇒「ZIP!」「ヒルナンデス!」
企画変更・企画強化・出演者変更によるリニューアル

◎GP帯盤石化⇒「ドラマ」「金曜ロードSHOW!」ラインナップ強化

Point

2

地上波テレビ(ネットワーク)の再価値化

◎圧倒的コンテンツ制作力 ⇒レギュラー重視、番組フロー重視

◎視聴者に寄り添う、信頼される報道・情報機関＝日本テレビ系列の価値最大化

⇒プライム2期連続無改編 (ドラマ枠除く)

決算のポイント

視聴率状況と番組編成

2017年度3Q決算と2017年度の見通し

テーマ

- ① H J ホールディングスとティップネス
- ② 今後の設備投資と減価償却費

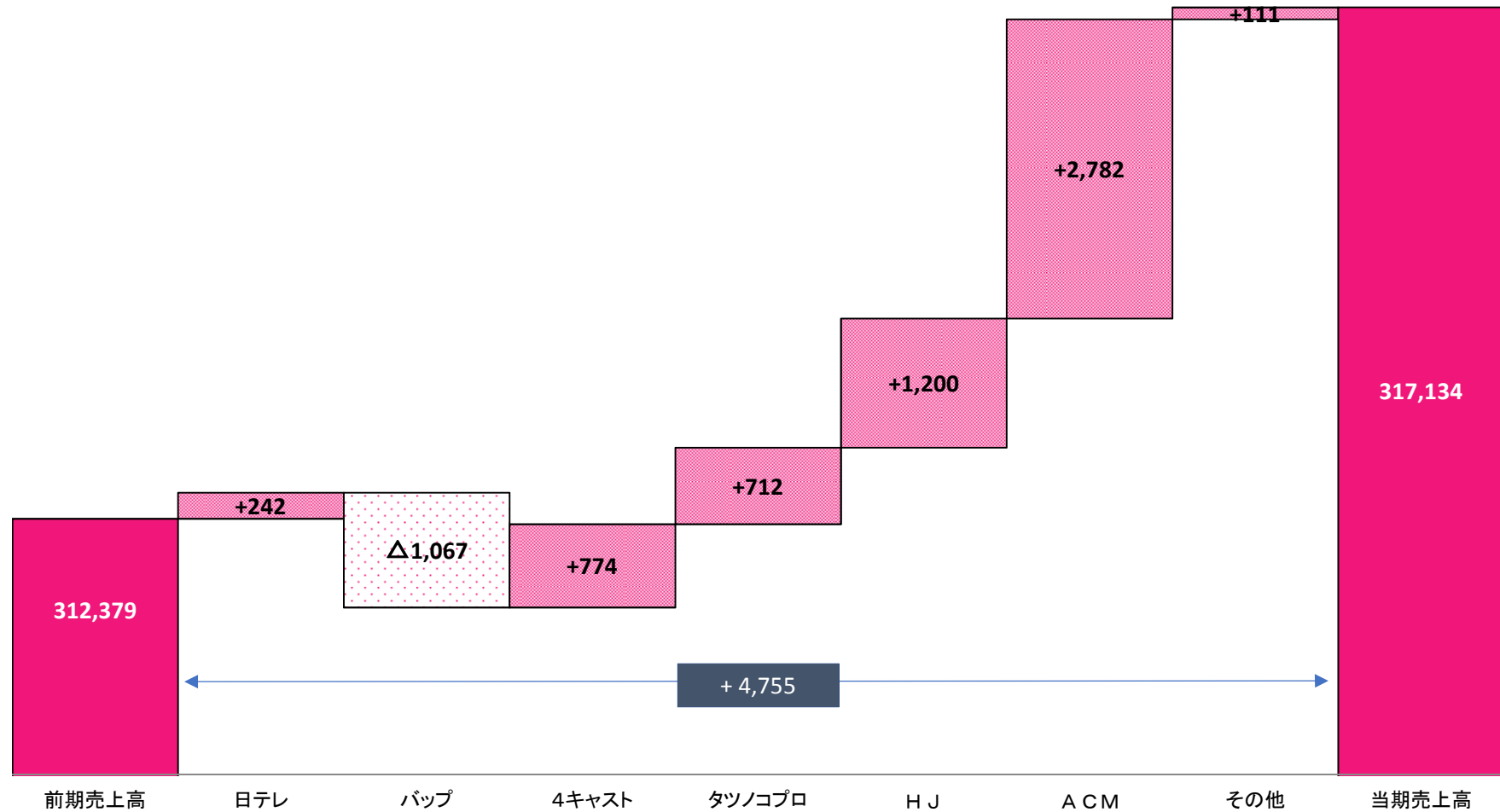
2017年度第3四半期 連結決算総括

日本テレビ放送網の放送外収入増、HJホールディングス会費収入増、その他グループ会社の収入増、前期末のACM連結子会社化等により増収。営業利益は、減価償却費・保守修繕費増、HJのコンテンツ原価増等により減益。当期純利益は日本テレビネットワーク統一の営業放送システムの減損損失計上(第2四半期)により減益。

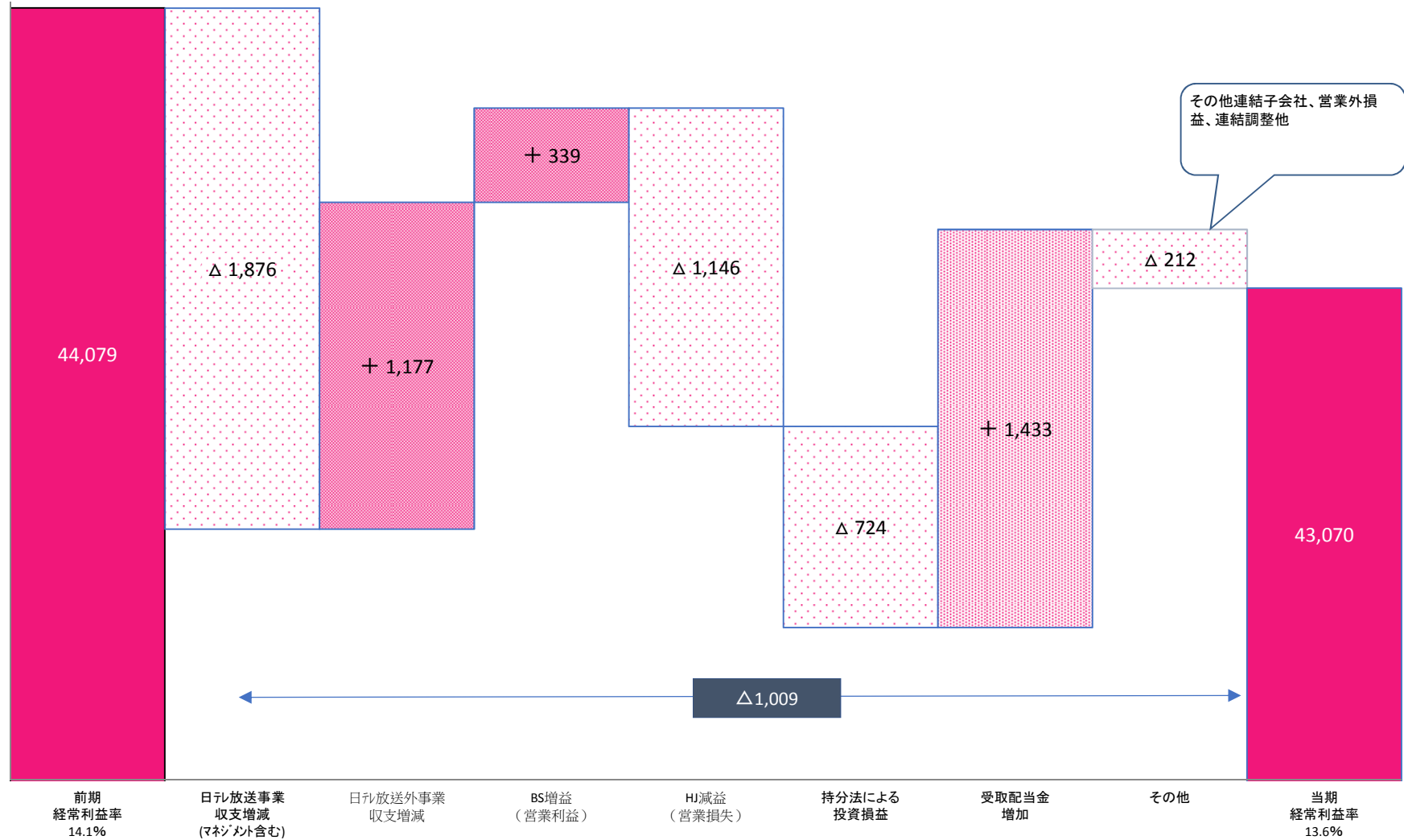
(単位:百万円)

	2016年度 第3四半期	2017年度 第3四半期	増減 (%)
売上高	312,379	317,134	1.5
営業利益	39,376	37,346	△5.2
経常利益	44,079	43,070	△2.3
親会社株主に 帰属する四半期純利益	31,035	23,016	△25.8

売上高の前年同期増減内容



経常利益の前年同期増減内容



連結業績予想

(単位:百万円)	2016年度実績	2017年度 前回発表予想(A)	2017年度 今回修正予想(B)	増減額 (B-A)
売上高	416,704	425,000	423,000	△2,000
営業利益	52,526	48,000	48,000	0
経常利益	58,130	53,000	53,000	0
当期純利益	40,786	31,000	31,000	0

配当予想

※配当予想の変更はありません

(単位:円)	第2四半期末	期末	合計
2016年度実績	10	24	34
2017年度予想	10	24	34

2017年度地上波テレビ広告収入と制作費の見込み（前期比）

(単位:%)	通期予想	(前回予想)
テレビ広告収入	△0.8	△0.9
(うちタイム)	0.9	0.1
(うちスポット)	△2.4	△1.9
制作費	1.2	2.8

決算のポイント

視聴率状況と番組編成

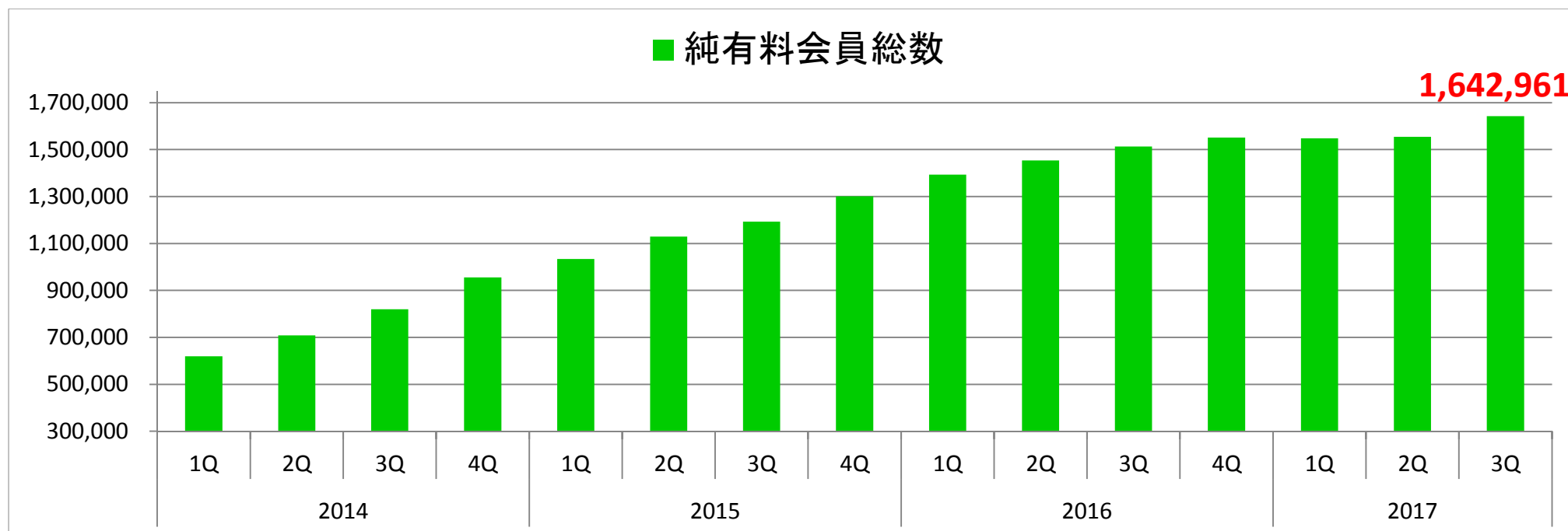
2017年度3Q決算と2017年度の見通し

テーマ

①HJホールディングスとティップネス

②今後の設備投資と減価償却費

HJホールディングス概況



■ 2017年3Q末の会員数**1,642,961人** ※前2Q末から+88,516人と大幅増(過去最高)

⇒7月期日曜ドラマ「愛してたって、秘密はある。」オリジナルストーリーと

⇒Huluオリジナル「雨が降ると君は優しい」で9月に約25万人の新規会員獲得した効果

■ 12月から始まった「プレミアムGYAO！」からの乗り換えキャンペーン利用者が**約1.1万人**

■ 3Qまでの実績値から、17年度末の会員数目標を**175万**に修正

ティップネスの取り組み

Point
1

2018年1月「総合フィットネスクラブ」と「24時間型ジム」の相互利用サービスを全ブランドに拡大導入

Point
2

ティップネスの新ブランド・女性専用のホットスタジオ『マグマ・スパ・ステューディオ HOTLUX(ホットラックス)』1号店オープン

Point
3

『TIPNESS 日本橋 STYLE』今夏オープン
再開発が進む日本橋エリアへ初進出

決算のポイント

視聴率状況と番組編成

2017年度3Q決算と2017年度の見通し

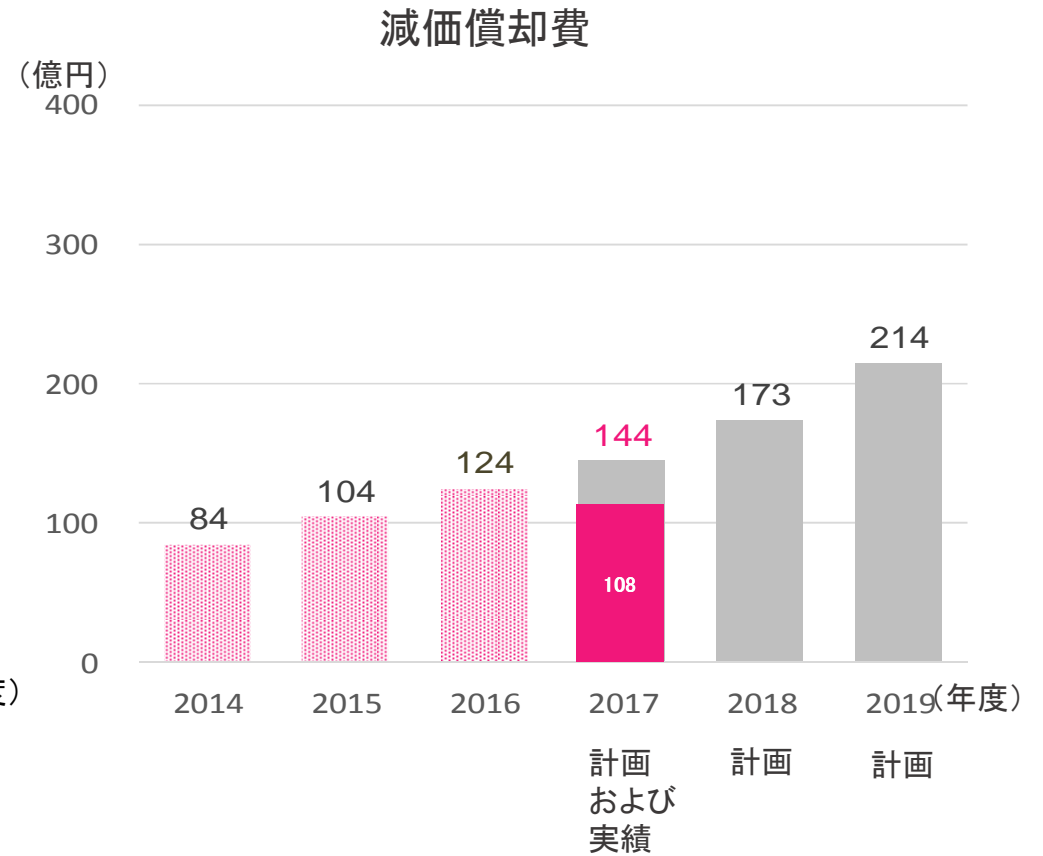
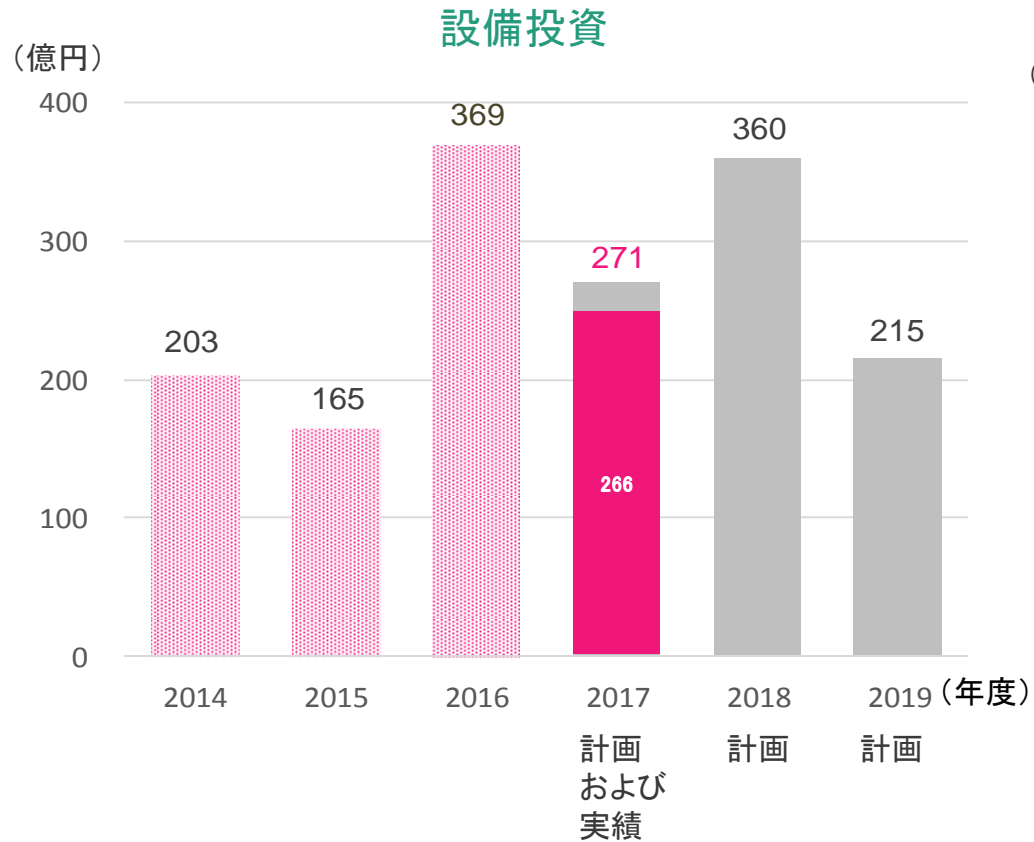
テーマ

① H J ホールディングスとティップネス

② 今後の設備投資と減価償却費

設備投資・減価償却費

2017年度 第3四半期 (単位：億円)	設備投資額	減価償却費
	266	108



補足資料

セグメント別 実績

2017年度 第3四半期 (単位:百万円)	報告セグメント				その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	メディア・ コンテンツ事業	生活・健康 関連事業	不動産 賃貸事業	計				
売上高	284,398	28,579	7,353	320,331	4,722	325,054	△7,919	317,134
セグメント利益	33,693	1,445	2,532	37,670	258	37,929	△583	37,346

報告セグメント	主な事業内容
メディア・コンテンツ事業	テレビ広告枠の販売、有料放送事業、動画配信事業、映像・音楽等のロイヤリティ収入、パッケージメディア等の販売、通信販売、映画事業、イベント・美術展事業、コンテンツ制作受託、テーマパークの企画・運営
生活・健康関連事業	総合スポーツクラブ事業
不動産賃貸事業	不動産の賃貸、ビルマネジメント

※前期末に連結子会社化した(株)ACM(全国5か所で展開する「アンパンマンこどもミュージアム」の企画、運営及び経営指導等)は、メディア・コンテンツ事業に区分しています。

日本テレビ放送網 決算概況

放送収入は前年同期実績を下回ったが、映画・海外ビジネス等の放送外事業収入の伸長により微増収。

営業利益は設備更新等に伴う減価償却費増、諸経費増により減益。

受取配当金が増加し経常利益は増益。

四半期純利益は特別利益として前期計上した受取補償金の反動減などで減益。

(単位:百万円)

	2016年度 第3四半期	2017年度 第3四半期	増減 (%)
売上高	232,983	233,225	0.1
営業利益	31,953	31,048	△2.8
経常利益	34,389	35,216	2.4
当期(四半期) 純利益	24,725	23,156	△6.3

日本テレビ放送網 営業収入

(単位:百万円)

	2016年度 第3四半期	2017年度 第3四半期	増減 (%)
放送収入	190,320	189,319	△0.5
番組販売収入	8,496	8,731	2.8
事業収入	32,595	33,652	3.2
不動産賃貸収入	1,570	1,523	△3.0
合計	232,983	233,225	0.1

日本テレビ放送網 放送収入

(単位:百万円)

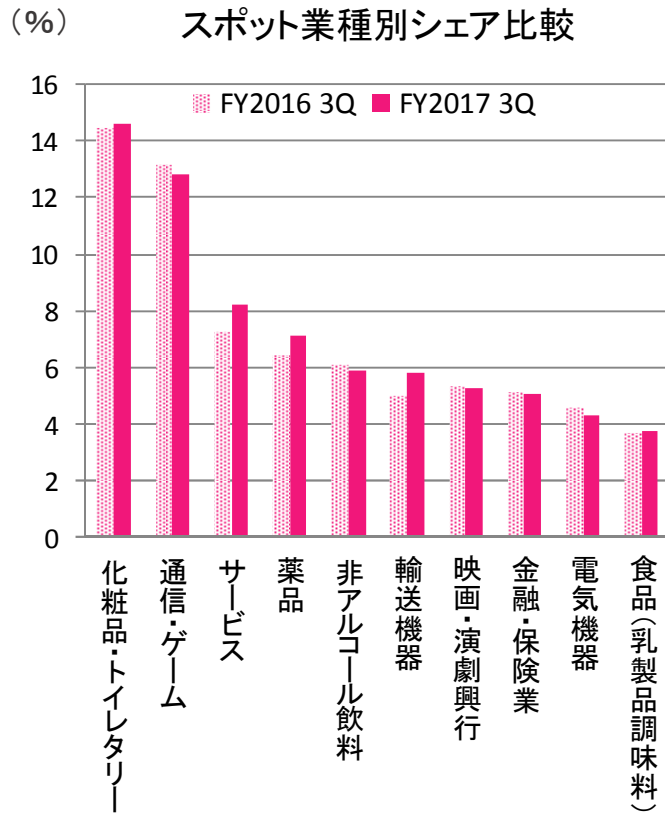
	2016年度 第3四半期	2017年度 第3四半期	増減 (%)
放送収入	190,320	189,319	△0.5
タイム	90,591	90,862	0.3
スポット	99,729	98,456	△1.3

日本テレビ放送網 放送収入 前年同月比

タイム	2016年度 (%)	2017年度 (%)
4月	4.5	6.5
5月	1.2	△0.2
6月	3.5	4.2
7月	11.1	△0.9
8月	10.9	△8.9
9月	0.6	7.1
10月	3.6	0.6
11月	0.0	△1.5
12月	2.7	△1.4
10月－12月	2.1	△0.8
4月－12月	4.2	0.3

スポット	2016年度 (%)	2017年度 (%)
4月	8.6	1.7
5月	7.2	0.0
6月	7.9	△7.2
7月	0.0	△6.5
8月	△7.7	10.4
9月	1.1	0.2
10月	6.1	△5.1
11月	0.5	△1.8
12月	5.8	0.1
10月－12月	4.1	△2.2
4月－12月	3.5	△1.3

スポット業種別売上シェア -地上波（日本テレビ放送網）-



	2016年度 第3四半期	シェア (%)	増減率 (%)	2017年度 第3四半期	シェア (%)	増減率 (%)
1	化粧品・ トイレタリー	14.5	△0.4	化粧品・ トイレタリー	14.6	△0.2
2	通信・ゲーム	13.2	9.7	通信・ゲーム	12.8	△4.7
3	サービス	7.3	17.3	サービス	8.2	11.6
4	薬品	6.5	△0.8	薬品	7.1	6.7
5	非アルコール飲料	6.1	25.7	非アルコール飲料	5.9	△4.1
6	映画・演劇興行	5.4	19.6	輸送機器	5.8	15.0
7	金融・保険業	5.2	8.6	映画・演劇興行	5.3	△1.8
8	輸送機器	5.0	△4.8	金融・保険業	5.1	△2.2
9	電気機器	4.6	△0.7	電気機器	4.3	△8.4
10	流通・小売業	4.1	△6.3	食品 (乳製品調味料)	3.8	0.7

注：増減率は実績の前年同期比。内部管理数値です。

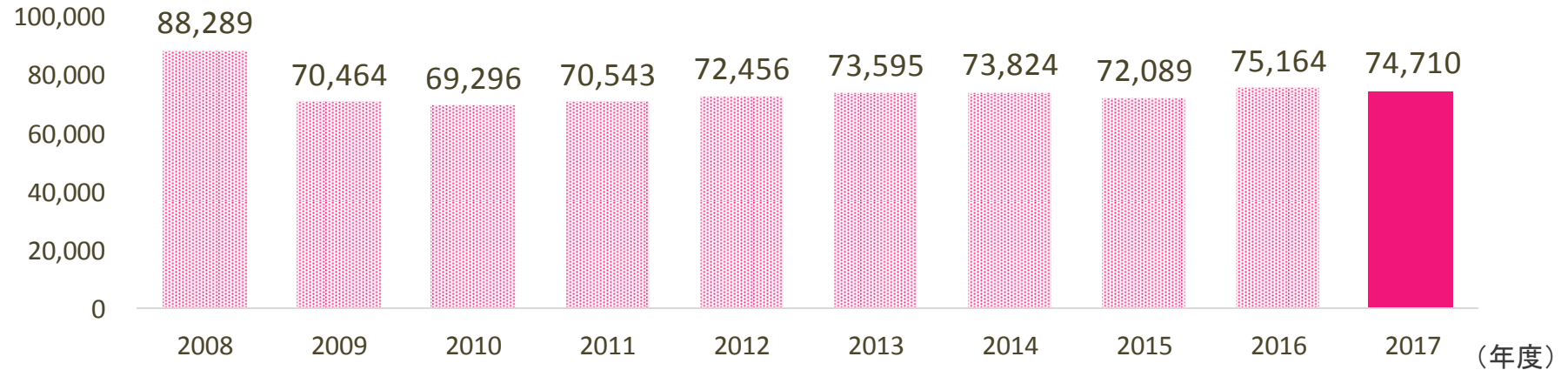
日本テレビ放送網 番組制作費

(単位:百万円)

2016年度 第3四半期	2017年度 第3四半期	増減 (%)
75,164	74,710	△0.6

番組制作費 (第3四半期)

(百万円)



日本テレビ放送網 事業収支

(単位:百万円)		2016年度 第3四半期	2017年度 第3四半期
有料放送	収入	6,621	6,727
	費用	3,179	3,213
	収支	3,442	3,513
ライツ	収入	1,554	1,555
	費用	682	521
	収支	873	1,034
通販	収入	6,530	6,384
	費用	6,061	6,056
	収支	468	328
映画	収入	6,615	7,365
	費用	6,427	6,446
	収支	188	918

(単位:百万円)		2016年度 第3四半期	2017年度 第3四半期
イベント	収入	5,461	5,234
	費用	5,322	4,553
	収支	139	681
海外ビジネス	収入	1,224	1,520
	費用	570	637
	収支	654	883
その他	収入	4,590	4,867
	費用	4,329	4,734
	収支	261	134
合計	収入	32,595	33,652
	費用	26,570	26,160
	収支	6,025	7,491

日本テレビ放送網 営業費用

(単位:百万円)

	2016年度 第3四半期	2017年度 第3四半期	増減 (%)
番組制作費	75,164	74,710	△0.6
支払電波料	24,339	24,429	0.4
代理店手数料	33,558	33,221	△1.0
人件費	16,858	16,866	0.0
減価償却費	5,704	6,690	17.3
事業費	26,570	26,160	△1.5
諸経費	18,833	20,098	6.7
合計	201,029	202,177	0.6

その他グループ会社の状況①

単位:百万円	BS日本	CS日本	日テレ・ テクニカル・ リソース	日テレ アックスオン	日テレ イベント	日本テレビ アート	日本テレビ 音楽	ハップ	ティップネス
売上高	11,876 (△0.1%)	3,665 (1.1%)	7,988 (△2.4%)	17,226 (3.2%)	2,630 (5.6%)	5,938 (△1.9%)	9,022 (6.2%)	10,225 (△9.5%)	28,579 (0.7%)
営業利益	1,475 (29.9%)	603 (1.3%)	163 (△16.3%)	834 (△10.1%)	110 (16.2%)	180 (△15.1%)	1,227 (△5.2%)	664 (△29.3%)	2,808 (△7.3%)
経常利益	1,523 (28.3%)	611 (2.0%)	180 (△16.0%)	846 (△9.6%)	112 (15.4%)	186 (△14.1%)	1,271 (△4.8%)	766 (△26.7%)	2,595 (△7.5%)
当期 (四半期) 純利益	1,040 (28.9%)	422 (1.5%)	119 (△26.1%)	567 (△11.1%)	74 (26.2%)	114 (△22.9%)	901 (△2.8%)	536 (△41.5%)	1,630 (△16.2%)

注: ()の数値は前期比増減をあらわしています
 前期もしくは当期損失計上の場合、増減率は「-」表記します。

その他グループ会社の状況②

単位: 百万円	日本テレビサービス	日本テレビワーク24	フォアキャスト・コミュニケーションズ*	日テレITプロデュース	日テレ7	タツノコプロ	HJホールディングス	ACM
売上高	2,738 (25.4%)	3,141 (3.6%)	2,778 (38.6%)	1,994 (62.0%)	2,576 (△10.8%)	1,931 (58.4%)	13,253 (9.9%)	2,782 (4.0%)
営業利益	88 (126.8%)	127 (88.7%)	△6 (-)	170 (144.1%)	61 (△28.8%)	43 (593.4%)	△2,189 (-)	192 (-)
経常利益	94 (111.1%)	91 (26.8%)	75 (△40.9%)	157 (154.0%)	62 (△28.2%)	40 (373.4%)	△2,188 (-)	206 (△42.0%)
当期(四半期)純利益	57 (518.6%)	60 (79.3%)	50 (△37.3%)	△4,809 (-)	42 (25.1%)	△84 (-)	△2,311 (-)	133 (△40.9%)

注: ()の数値は前期比増減をあらわしています
前期もしくは当期損失計上の場合、増減率は「-」表記します。

※日テレITプロデュースは日本テレビグループのシステム開発、管理保守を行う連結子会社
第2四半期決算において、当期に稼働を始めた日本テレビネットワーク統一の営業放送システムの減損損失計上

2017年「下半期」視聴率

期間：2017/10/02(月)～2018/02/04(日)

(単位：%)	NTV	EX	TBS	TX	CX	2位との差	HUT
全 日	8.4	7.8	6.6	2.9	5.8	+0.6	41.3
(6時～24時)	(-0.4)	(+0.3)	(+0.5)	(+0.1)	(±0.0)	(-0.7)	(+0.3)
プライム	12.4	10.6	10.1	6.2	7.9	+1.8	58.7
(19時～23時)	(-0.2)	(-0.1)	(+0.4)	(+0.1)	(-0.3)	(-0.1)	(±0.0)
ゴールデン	12.8	10.6	10.3	6.7	8.1	+2.2	61.4
(19時～22時)	(-0.1)	(-0.1)	(+0.5)	(+0.2)	(-0.2)	(±0.0)	(+0.4)
ノンプライム	7.3	7.0	5.6	1.9	5.2	+0.3	36.3
(6時～19時 23時～24時)	(-0.4)	(+0.4)	(+0.5)	(±0.0)	(+0.1)	(-0.8)	(+0.4)
プラチナ	6.6	5.2	4.7	2.4	3.9	+1.4	28.3
(23時～25時)	(-0.5)	(-0.9)	(+0.2)	(-0.2)	(-0.1)	(+0.4)	(-1.4)

注：1. 表示は左からデジタルチャンネル順

2. 世帯視聴率（関東地区）・ビデオリサーチ調べ

3. ()内は前年同期との差 比較期間：2016/10/03(月)～2017/02/05(日)

2018年 映画事業の主なラインナップ ①

☆＝日テレ主幹事

公開	作品名	配給	備考
2017年 12/9 (土)	☆ DESTINY 鎌倉ものがたり	東宝	観客動員230万人突破(1/23時点) 公開中 「ALWAYS 三丁目の夕日」のチームが再結集し、西岸良平による累計900万部の人気漫画「鎌倉ものがたり」を初実写化 監督・脚本・VFX:山崎 貴 出演:堺 雅人 高畑充希
2018年 2/24 (土)	Infini-T Force	松竹	ガッチャマン、テッカマン、ポリマー、キャシャーン…今年10月に創立55周年を迎えたタツノコプロの、伝説のヒーローたちが夢の競演！ テレビシリーズ、Hulu、映画の連動プロジェクト。 監督:松本淳 声の出演:関智一 櫻井孝宏 鈴木健一 斉藤壮馬
2018年 3/17 (土)	☆ ちはやふる -結び-	東宝	2016年公開の「上の句」「下の句」で200万人を超える観客動員数を記録した「ちはやふる」。ファン待望のシリーズ3作目にして完結編。テーマは「卒業」そして「未来」。 監督・脚本:小泉徳宏 出演:広瀬すず 野村周平 新田真剣佑
2018年 4/13 (金)	名探偵コナン ゼロの執行人	東宝	シリーズ第22弾。前作では興収68.7億円のシリーズ最高を記録(10月25日現在、2017年邦画No.1)。

2018年 映画事業の主なラインナップ ②

★＝日テレ共同幹事

公開	作品名	配給	備考
2018年 4/27 (金)	★ ママレードボーイ	WB	累計1000万部超えの超カリスマコミックス【ママレード・ボーイ】の実写映画化。少女コミックスの全てが詰まったレジェンド原作。 日本テレビ＝ワーナーブラザーズ映画共同幹事作品 監督：廣木隆一 出演：桜井日奈子 吉沢悠
2018年 6/1 (金)	★ 50回目のファーストキス	SPE	ドリュー・バリモア & アダム・サンドラのハリウッドムービー「50回目のファーストキス」のリメイク作品。コメディ映画の天才・福田雄一が挑む「泣けるラブコメ」。 日本テレビ＝ソニーピクチャーズ共同幹事作品 監督：福田雄一 出演：山田孝之 長澤まさみ

2018年 イベント事業の主なラインナップ ①

期間	イベント名	内容
2018年 1/23(火)～4/1(日)	「ブリューゲル展 画家一族 150年の系譜」	日本で高い人気を誇る16世紀フランドルを代表する画家、ピーテル・ブリューゲル1世とその息子ピーテル2世、ヤン1世、さらに孫、ひ孫まで、4世代150年にわたる画家一族の系譜に迫るユニークな展覧会。個人所蔵家のコレクション約100点を観覧できる貴重な機会。殆どが日本初公開の作品となります。 @東京都立美術館 / 愛知県、北海道、広島、福島を巡回予定
2018年 2/22(木)～3/4(日)	「99才まで生きたあかんぼう」	1人の男の0才から99才までを綴った人間ドラマ。百年のいのちの輝きを描いた感動の名作を、辻仁成の脚本・演出で待望の初舞台化。音楽はSUGIZO。演劇界期待のホープ村井良大をはじめ、松田凌、玉城裕規、馬場良馬、松島庄汰、松田賢二が出演。 @よみうり大手町ホール / 大阪、名古屋、福岡でも公演予定
2018年 4/6(金)～5/5(土)	「それいけ！アンパンマンミュージカル まもれ！黄金の炎」	アンパンマンがミュージカルになってやってくる！黄金の炎を巡るワクワク・ドキドキのストーリー。テレビアニメでもお馴染みの局が多数流れるほか、フライングなど本格的な演出もあり親子で楽しめます。東京、市川、川口、相模大野、川崎の5会場で開催予定。
2018年 4/21(土)～5/7(月)	「丸美屋食品ミュージカル アニー」	1986年にスタートし、今では全国約172万人もの人たちに深い感動を与え続けている国民的ミュージカル。2017年の公演から新たに山田和也氏を演出に迎え、翻訳・振付・舞台セット・衣裳などを一新し、新演出版『アニー』がスタート。2018年公演はオーディションで選ばれたアニー役・新井夢乃・宮城弥栄をはじめ、大人キャストには親子2代で同じ役を演じる辺見えみり他、個性豊かな顔ぶれが揃い、33年目となる『アニー』が始動します！ @新国立劇場 中劇場 / 福岡・大阪・新潟・名古屋でも公演予定

2018年 イベント事業の主なラインナップ ②

期間	イベント名	内容
2018年 5/30(水)～9/3(月)	日本テレビ開局65年記念事業 「ルーヴル美術館展 肖像芸術 ——人は人をどう表現してきたか」	人の似姿を描出する肖像芸術は、古代以来の長い歴史をもつ芸術ジャンルです。本展は、肖像芸術の社会的役割や表現上の様々な特質を、ルーヴル美術館の全8部門の代表的作例を通じて浮き彫りにします。3000年以上も前のエジプトの棺用マスクから、ルイ14世やナポレオンなどの君主像、華麗な女性や愛らしい子どもたちの肖像まで、肖像芸術の魅力をご堪能ください。 ◎国立新美術館(六本木) 2018年5月30日(水)―9月3日(月) ◎大阪市立美術館2018年9月22日(土)―2019年1月14日(月・祝)
2018年 7/4(水)～7/29(日)	日本テレビ開局65年記念事業 「ミュージカル エビータ」	強く逞しい女性の象徴、エビータ——貧民街に生まれながらもモデルや女優を経て、アルゼンチン大統領夫人にまで上り詰めた実在の女性エヴァ・ペロン(エビータ)。彼女の33年にわたるドラマティックな生涯がミュージカルとなって誕生したのは40年前。アンドリュー・ロイド＝ウェバー作曲、ティム・ライス作詞、ハロルド・プリンス演出という、ミュージカル界の巨匠トリオによる同作は1980年のトニー賞で最優秀作品賞を含む7部門を受賞し、金字塔的作品となりました。その後、世界各地で再演が繰り返されるなか、2018年、ロイド＝ウェバー生誕70周年を記念して作られた1978年初演時と同じオリジナル演出版に日本公演限定出演となるラミン・カリムルーを迎え、待望の初来日を果たします。 @東急シアターオーブ(渋谷ヒカリエ)